

重要文化財 井上家住宅主屋ほか4棟保存修理工事 第4回現場公開 見学資料

平成29年11月18・19日
公益財団法人 文化財建造物保存技術協会

1. 工事の概要

井上家住宅は倉敷最古の町家建築で、平成14年、主屋、三階蔵、井戸蔵、東西土塀の計5棟が重要文化財に指定されました。非常に傷んでいたため、直後に応急修理を施しましたが、この度ようやく本格修理にこぎつけることができ、平成24年12月に事業に着手しました。

主屋は一旦礎石まで全て解体し、平成26年4月から組立工事を行っています(解体修理)。また、平成28年10月からは三階蔵と井戸蔵の修理に着手しています。三階蔵は、傷みが比較的小さいため半解体修理とし、^{あげや}揚屋(建物全体のジャッキアップ)をして足元廻りの補修と基礎工事を行いました。井戸蔵は解体修理で、現在解体を完了しています。

事業は、設計監理を公益財団法人 文化財建造物保存技術協会に委託、施工を入札により株式会社 藤木工務店 倉敷支店(第Ⅰ～Ⅵ期)の請負工事とし、国・岡山県・倉敷市の補助事業として進められています。完了は平成34年6月となる予定です。

2. 調査及び主屋の現状変更

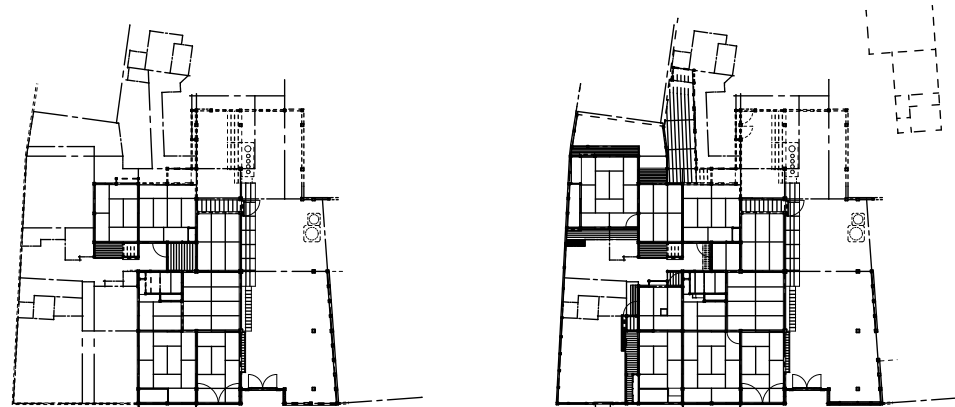
主屋の解体時の調査では、建物の変遷が概ね明らかになりました。2階の壁板に残された墨書から、享保6年(1721)に上棟したことが知られ、その後修理前まで増改築を繰り返したことがわかりました(右図)。今回は、江戸時代末期の天保年間(1830～44)頃の姿に復原する方針で現状変更を申請し、許可されました。

三階蔵は主屋建築後間もなく建てられ、井戸蔵もその後建てられたと考えられます。主屋や三階蔵での発掘調査では、建物の礎石下を石で固めながら、敷地を何層にも分けて盛土するという建築当時の念入りな地業が、今回初めて確認されました。

3. 修理の内容

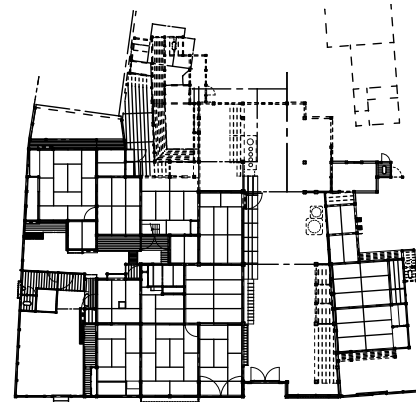
工事では、建物そのものだけでなく技術の伝承も図るため、解体中の調査結果に基づき、できるだけ元の通りの工法・材料を使って修理を行っています。古い材料そのものに価値があるため、木材であれば傷んだ部分のみを切り取って継ぐなどし、壁であれば解体後に保管していた元の壁土を藁と練り合わせ、屋根も元の瓦を1枚1枚調査して健全なものを抽出し、それぞれ古い材料を極力再利用しています。古い木製部材や瓦は、手仕事で作られており、また長い歴史の中で変形なども生じているため、新しい材料を使用するよりもはるかに手間と根気の必要な作業となります。

そのうえで、構造的に弱い部分や、雨漏りや虫喰いにより傷みややすい部分は、補強したり、現代的な工法を併用したりして、できるだけ同じ破損を繰り返さぬよう、工夫を重ねています。敷地は地下水位が高いため、主屋は防湿を目的としたコンクリート基礎を設置し、また鉄骨等による補強も行います。三階蔵・井戸蔵は、かつて香川県で産出した^{てしま}豊島石による基礎石の劣化が進んでおり、この補強のため、やはりコンクリートの基礎を設置しています。



1. 当初：享保6年(1721)上棟

2. 明和9年(1772)頃まで



3. 江戸時代後期頃(文政期：1829)頃まで(家相図)



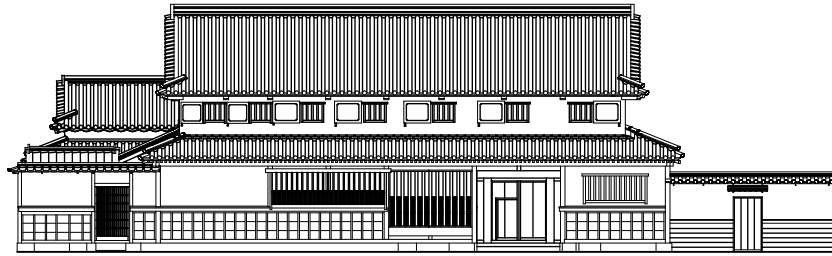
4. 天保年間(1830～1844)頃 **復原年代**



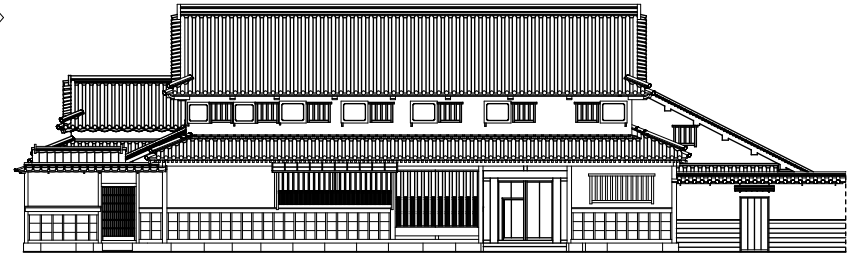
5. 修理前：平成24年まで



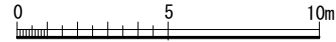
主屋修理前正側面



主屋修理前正面図



主屋竣工予定正面図



三階蔵。倉敷唯一の三階建て土蔵



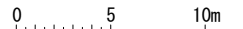
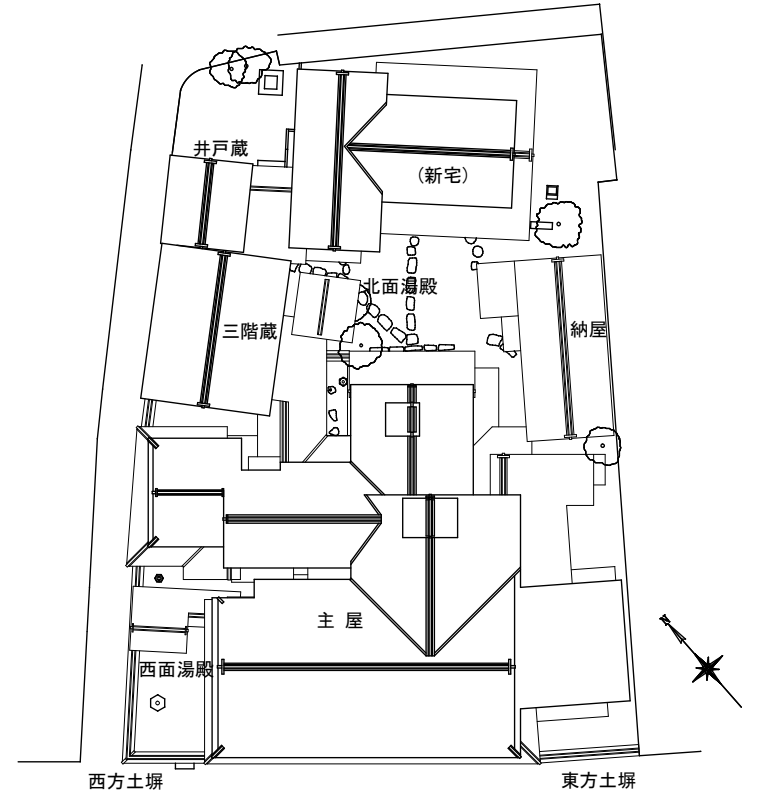
三階蔵中央柱の地業



伝統的な工具、鉦(ちょうな)を使った加工



珓直し(主屋吹抜)。壁土は何層にも塗り重ねる



※北面湯殿及び納屋、新宅は文化財未指定

重要文化財 井上家住宅 配置図(竣工予定)